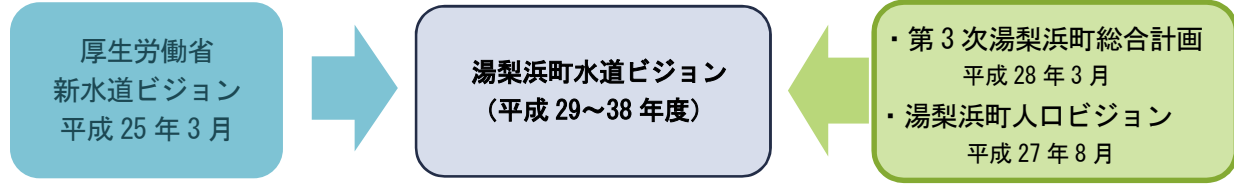
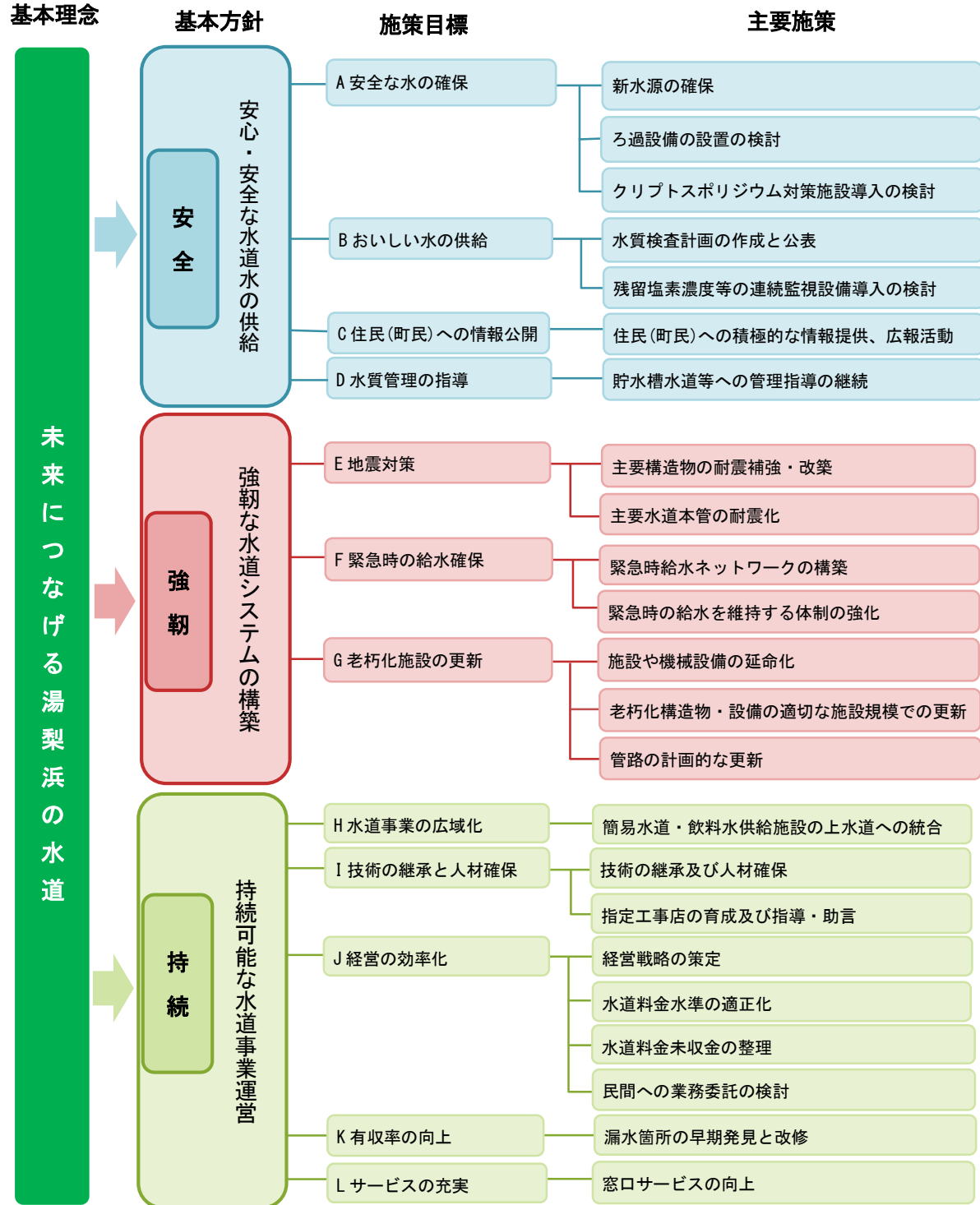


湯梨浜町水道ビジョン概要版～未来につなげる湯梨浜の水道～

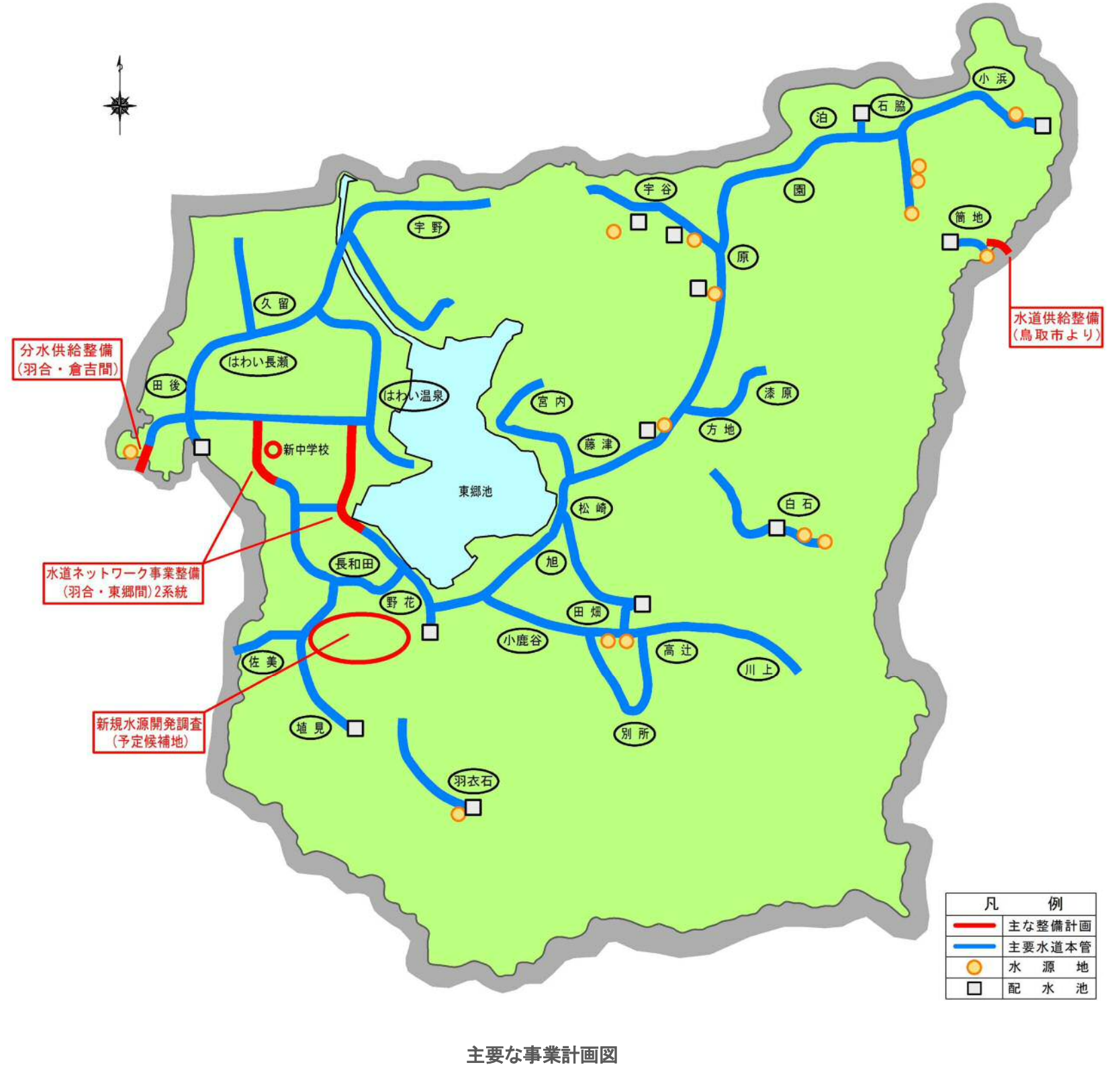
湯梨浜町水道ビジョンは、本町の総合計画である第3次湯梨浜町総合計画で示された方針を基に、平成25年に厚生労働省が策定した新水道ビジョンで掲げられた「安全」「強靱」「持続」の政策課題について水道事業が目指すべき方向性と実現のための方策を示すものです。



湯梨浜町水道ビジョンの位置づけ



湯梨浜町水道ビジョン 施策の体系図



水道ビジョン策定にあたって

湯梨浜町の水道事業は、昭和30年代の前半から平成16年の市町村合併まで、3町村でそれぞれ整備・運営されてきました。現在は1上水道事業、6簡易水道事業、2飲料水供給施設、2専用水道で町内を網羅しており、本町の水道普及率は99.3%（平成27年度末）です。

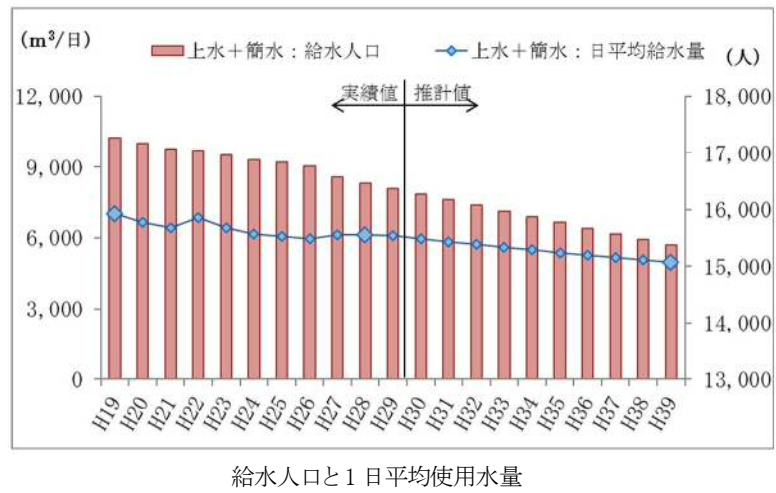
しかし、人口の減少や節水機器の普及などのため有収水量は減少傾向であり、水道事業の経営は厳しさを増すことが予測されるなか、老朽化しつつある施設・管路の更新、地震やその他の自然災害への対策、安全な水量の安定的な確保等の課題を抱えており、これらの対応には多大な時間と費用を要することから、計画的・効率的に事業を行っていく必要があります。

このような状況のもと、本町水道事業の現状と課題、目指すべき将来像を示し、これからも町民（住民）のために安全で良質な水を安定供給していくため、平成30年度から平成39年度までの10年間を計画期間とした「湯梨浜町水道ビジョン」を策定することとしました。

水需要の見通し

湯梨浜町の行政区域内人口については「湯梨浜町人口ビジョン（H27.8）」にて減少する予測が公表されています。給水人口は、行政区域内人口の変動に比例して推移していくと考えられ、推計した結果、平成28年度末の給水人口16,468人は、平成39年度末に15,379人まで減少する予測となりました。

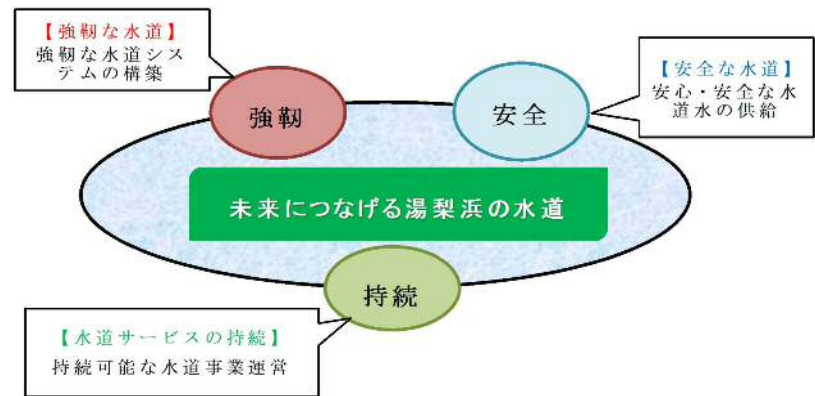
給水量も給水人口の減少と同様に減少傾向となり、平成28年度末の1日平均給水量6,124m³/日が、平成39年度末には4,969m³/日まで減少する予測となりました。水需要の減少は、そのまま給水収益の減少に直結するため、平成39年までには約18.9%の給水収益が減少すると予測されます。



基本理念と基本方針

今後の本町の水道事業は、人口減少から派生する料金収入の減少、増え続ける老朽化施設の更新のほか、水道事業を取り巻く環境の変化に対応しながら、水道利用者である町民の信頼を裏切ることなく、おいしい水を未来の子供たちに残していくことを願い、基本理念は『未来につながる湯梨浜の水道』としました。

この基本理念のもと、国の「新水道ビジョン」が掲げる「安全」「強靱」「持続」という政策課題に沿って、水道の理想像を実現するための基本方針を示し、事業を推進します。



施策目標を達成するための主要施策と具体的施策

湯梨浜町の水道の将来像を見据え、「未来につながる湯梨浜の水道」の実現に向け、本ビジョンの施策目標とそれを達成するための主要施策を3つの基本方針毎に設定しました。以下に具体的施策を示します。

(1) 【安全】安心・安全な水道水の供給

A安全な水の確保…羽合地区と泊地区へのより安全な水の供給を目指し、良質な水質の水源を開発するための調査を行います。同時に羽合浄水場にはマンガンの処理能力を上げる、新たなろ過設備（連続移動床前処理装置）の設置を検討します。クリプトスポリジウム等の汚染のリスクが高い東郷地区の3箇所の水源地へは、その対策方法についてランニングコストも含めた検討を行い、最適な対策施設の導入を検討します。

Bおいしい水の供給…今後も継続しておいしい水を供給するために、水質検査計画の公表を継続するとともに、必要に応じて残留塩素濃度をはじめとする水質自動監視設備の導入を検討します。

C住民（町民）への情報公開…町民（住民）への積極的な情報提供・広報活動のため、ホームページや町報等の発行物を有効に活用した広報活動を行います。

D水質管理の徹底…貯水槽水道の建物に居住する人々に安心して水道水を使用してもらうためにも、建物の所有者（管理者）が自ら貯水槽水道の給水設備を定期的に点検・清掃を行うよう、助言・指導を継続していきます。

(2) 【強靱】強靱な水道システムの構築

E地震対策…配水池等の構造物については、耐震診断を実施し、耐震性能が不足する構造物については、耐震補強の実施または改築を検討し、早期の耐震化を計画的に実現します。

管路については、主要な管路を優先的に耐震化するものとします。主要な管路とは、流量の多い管路と災害時にも給水を欠かすことができない避難所や福祉施設に給水する管路で、この中で老朽度の高い路線から優先的に耐震化を行います。

F緊急時の給水確保…ハード面では、緊急時に隣接する配水系統や事業体から受水できるよう、連絡管を布設することにより給水ネットワークを構築します。ソフト面では、地元管工事業者と協定を締結する等の連携強化を図ります。

G老朽化施設の更新…配水池等の土木施設及び機械・装置等については、老朽度の把握と適切なメンテナンスにより延命化を図るとともに、水需要に適合した規模について検討し、更新事業費の低減を図ります。配水管は、管路の耐震化と併せて老朽管路の更新を計画的に進めます。

(3) 【持続】持続可能な水道事業運営

H水道事業の広域化…経営基盤が脆弱な簡易水道事業及び簡地地区飲料水供給施設を平成31年度に湯梨浜町上水道に経営統合し、経営基盤の強化を図ります。

I技術の継承と人材確保…水道事業運営に必要な知識や技術を習得した人材を育成していきます。また、町指定の給水装置工事店の技術力向上と平準化のために、指定工事店の育成及び指導・助言を行います。

J経営の効率化…事業の運営については、経営の効率化を目指して経営戦略の策定を行います。

水道料金及び各種手数料は、水道料金収入の減少と、施設の更新に必要な費用を考慮し、適正な料金水準について検討します。また、未納料金の早期収納に努めるほか、PFI等の民活手法の導入効果についても研究を進めます。

K有収率の向上…老朽化した配水管の計画的な更新の実施と、漏水箇所の早期の発見と修繕に努めます。

Lサービスの充実…インターネットによる諸手続きの導入、コンビニエンスストアでの収納、漏水減免制度の見直し、窓口受付時間の延長や、休日の閉鎖栓に関する手続き等を検討し、サービスの充実に努めていきます。

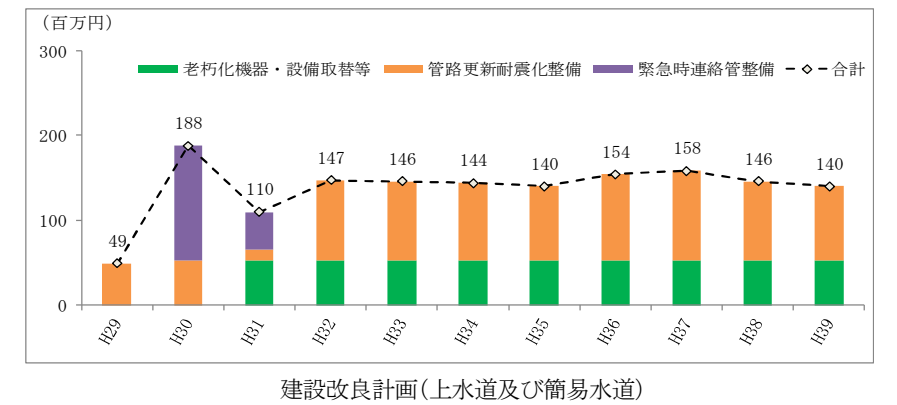
建設改良計画の予定

今後10年間の建設改良計画として以下の事業に取り組みます。その事業費として毎年110百万円～188百万円の費用が必要であると見込んでいます。

①緊急時連絡管整備事業…緊急時の連絡管として、羽合配水池系統と国信配水池系統の連絡管、隣接する倉吉市水道事業と羽合配水池系統との連絡管、鳥取市水道事業と簡地地区への連絡管の整備を行います。

②管路更新耐震化整備事業…老朽化が進んだ管路の計画的更新を継続的に実施します。なかでも災害時の避難所となる施設へ給水を行っている配水管など、重要度の高い管路については、今後の20年間で、老朽管の更新と同時に耐震性に優れる管に更新します。

③老朽化機器・設備取替事業…老朽化が進んだ機器（流量や水位を計測・記録する機器、遠方から現地の状況を監視する機器）やポンプなどの設備類を順次更新します。



経営の見通し

水道事業の経営が中長期にわたる施設整備や老朽化施設の更新需要に耐えうるかどうか検証するために財政収支予測を行いました。その結果、平成34年度以降、収益的収支が赤字となる見込みであり、事業の持続性を保持できない状態となります。収益的収支が赤字になっても資金が給水収益の1年以上は残っていることから、経営的には維持できるものの、1年分を割り込むことが考えられる平成39年以降は経営悪化に陥ることが予測されます。

この対策として、様々な手だてを講じて経営改善のための経費削減を図る一方で、料金体系の抜本的な経営改革が必要であると考えています。

